

分析計画書についての補足説明

1. 環境等影響分析の目的
2. 過去の流域委員会における目標洪水の考え方と課題
3. 分析計画書における目標洪水の考え方
4. 治水の具体的方策の考え方

平成19年11月21日

国土交通省近畿地方整備局
姫路河川国道事務所

環境等影響分析の目的

1

従来の河川整備

治水・利水における社会面・経済面、技術面の分析を行い決定

揖保川における取組

環境面からの分析を加えた、総合的な観点からの計画立案が目標

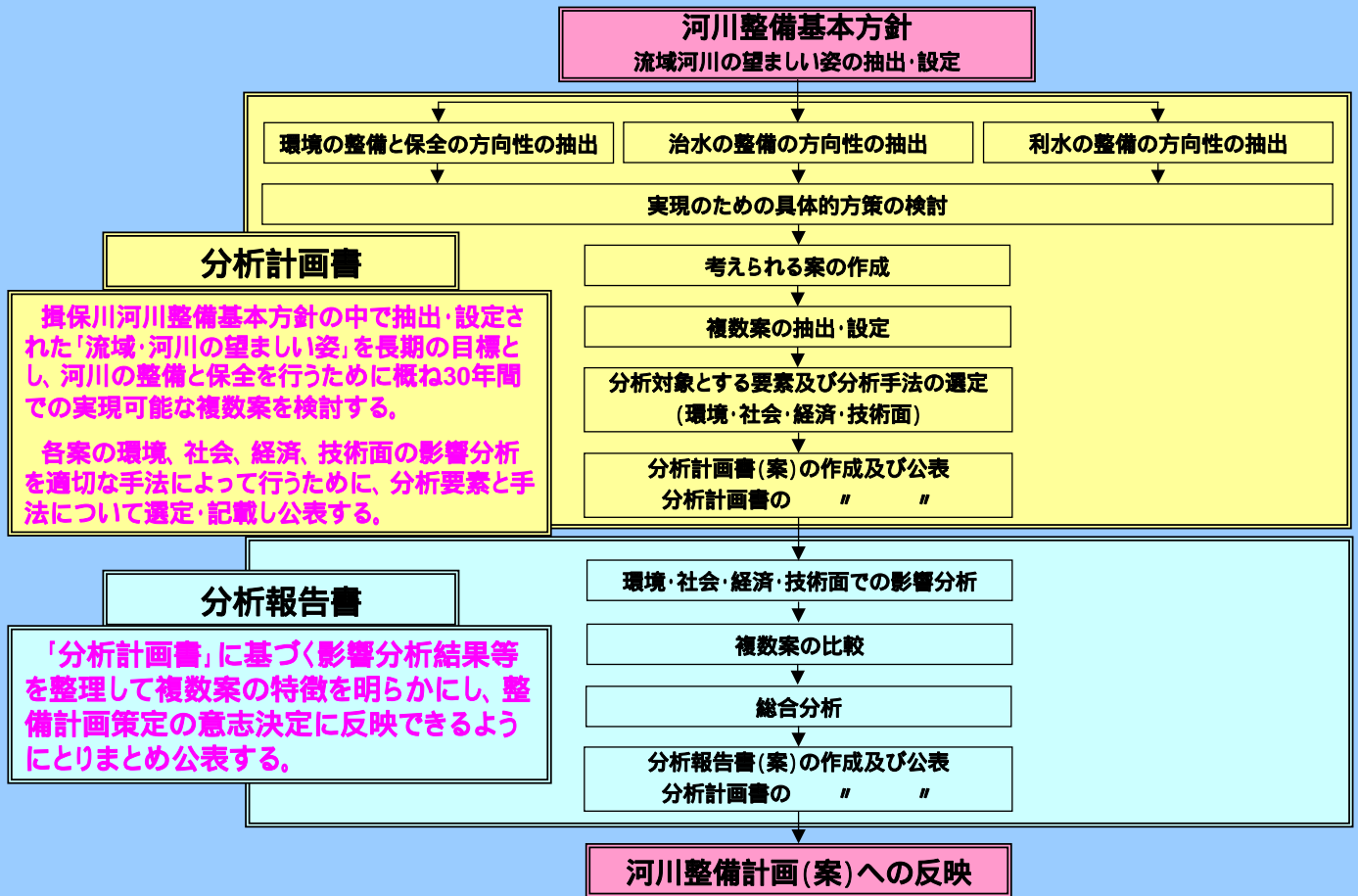
揖保川における整備と保全の方向性(目標)を明確化

目標を実現するための環境・治水・利水の具体的方策を複数案について検討
(初めから最適案を決め付けない検討方法)

複数案に対して、環境面、社会面、経済面、技術面の影響を分析
(どんな所が良いのか、どんな所が悪いのか、複数案に対する効果と影響を評価)

影響分析結果を踏まえた河川整備計画の立案

複数案に対する効果と影響を踏まえ、河川整備計画(案)に反映



過去の流域委員会における目標洪水の考え方と課題

過去の流域委員会における説明

整備計画目標洪水: 昭和47年7月洪水

設定理由: 予算規模の制約に応じた洪水を設定

課題

- 他水系と比べて、目標が小さすぎるのではないか？
- 想定事業費ありきで良いか？
- 住民の理解、合意形成を図れるか？

住民との合意形成を目指して

位置付け: 今までの議論の継続

住民が比較検討しやすい目標洪水を追加

- ・幅広く議論ができるようにしたい
- ・流域の上流・下流など、多くの人から意見を頂けるようにしたい
- ・理解して頂きやすくしたい

分析計画書における目標洪水の考え方

洪水規模と降雨分布で対象洪水を設定

対象洪水：3洪水

- ・大規模(戦後最大)：S45.8洪水、中規模：S51.9洪水、小規模：S47.7洪水を選定
- ・確率規模よりも、実績洪水の方が住民にイメージしやすい

降雨分布：上流集中型、下流集中型を選定

同じ洪水であっても、地域によって意味合いが異なる



流域委員会及び住民から意見を頂きたい内容

洪水の規模や特徴によって、どのような課題があるか？

どのような洪水規模を目標とするべきか？

(ただし、対象洪水によっては、今後30年間の整備で到達できない場合がある)

上流・下流それぞれの地域にとって、目標はどうあるべきか？

・目標洪水は同じで良いか？

・どこから整備を進めるべきか？(安全度が低い地域、上流、下流、支川から等)

治水の具体的方策の考え方

対策案

築堤、河道掘削等の河道対策案

新規ダム + 河道対策案

遊水地 + 河道対策案

対策案の選択

住民の方には初めて提案する内容であり、揖保川流域で文字通り「考えられる案」として、河道対策(築堤、河道掘削)、洪水調節施設(新規ダム、遊水地)を提案した。

複数案の選定

妥当性のあるものを選定

比較検討をするのに分かりやすい案を選定

期待する議論

各案の環境等影響分析を踏まえた議論

河道掘削案(増水時の水位を下げる)、築堤案(破堤被害が大きくなる)

上流改修は下流の増水時の水位を高くするなど、上下流バランスを議論する必要がある。

築堤する判断と当該地に遊水地をする判断とトレードオフの関係にある。